

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ステップきっず			
○保護者評価実施期間	令和7年6月21日		～	令和7年7月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和7年6月17日		～	令和7年7月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育、看護職員の加配により1対1の療育ができ、丁寧な個別対応をしている。	個々の生活リズムや、経験、特性に合わせた療育ができるよう、利用児1人1人のデイリープログラムを立てている。また、個別支援計画をもとにした独自様式の月案を作成することにより、更に具体的なねらいのもと日々の活動を組み立てるようにしている。	一度作成したデイリープログラムを見直す頻度が決まっておらず固定化されやすいため、月案作成時に見直すようにしていく。一層充実した療育にするために、特に食事や医療的ケア、午睡の時間帯などについては家庭との調整もおこなっていく。
2	職種に関わらず、職員間の関係が良好で、コミュニケーションが活発である。	月1回の職員研修では全職員が集まり、ケース会議や子どもの発達のこと、医療的ケアのことなど様々なテーマをもとに勉強会をおこなっている。 保育士全員が3号研修を受講し吸引等の医療的ケアをおこなっている一方で、看護師が遊びに加わることもあり、職種を超えて皆で療育をおこなっている。 様々な視点で子どもたちを見ることができ。	時差出勤の職員が多く、朝礼や終礼など日々全職員が集まれる機会がないため、これまで以上にLINEWORKSや申し送りノートを活用して情報共有に努めていきたい。 信頼しているために言葉が足りず共有できていないことがあるため、声に出して伝え合い、報連相を強化する。
3	意思の疎通や情報伝達のためのツールを積極的に療育に取り入れている。	生活や遊びのカードをコミュニケーション手段の1つとして早期に療育に取り入れている。また、遊びの1つとしてiPadやスイッチ操作を取り入れ、情報伝達のためのツールに触れて慣れる機会を設けている。	子どもの発達や特性に合わせたツールの導入方法や使用方法の知識を深めていく。 就学後の生活を見据えて、学校でどのようにツールを使用しているか情報を集めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	遊びが固定化してしまうことがある。	おもちゃや絵本が変わらないため。 子どもの発達や特性によっては、同じものでじっくり遊ぶことで自分できたという達成感や成長を感じられると考え、あえておこなっていることもあるが、一方で、継続して遊ぶことにより興味関心が薄まってしまう可能性がある。	月案作成時に、使用しているおもちゃや絵本についても振り返りをおこない、遊びの内容の評価を強化していく。 遊びの研修に参加し、遊びの幅を広げる。
2	整理整頓が不十分。	当日使用するおもちゃを事前に棚から出して子どもたちの近くに準備しているが、遊んでいる間に周囲におもちゃが広がっているということがある。	異年齢で、発達や疾患も様々な子どもたちが利用しているため、移動時に危険のないように、事前に準備するおもちゃを厳選し、子どもたちも職員も片付けやすく過ごしやすい環境を作る。 職員間で、環境を整えることは療育において重要という共通認識を図る。
3	集団療育の時間が少ない。	送迎時間に幅があり、全員が集まる時間が遅くなっている。 子どもたちが安心して過ごせるように自宅での生活リズムを大きく変えずに療育をおこなっているため、個々の活動時間が異なり、集団療育の時間をとりにくい。 1対1で担当しているため、集団療育を取り入れようという意識が薄くなりやすい。	季節ごとに主活動を決め、他児といっしょに活動に参加する時間を設けやすいようにしていく。 全員で集まることが難しい日は、2名などの少人数になる場合でも、少しでも他児と交流する機会を増やしていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和 7 年 9 月 25 日					
ステップきつず							
		チェック項目	はい	いいえ	無記入 又は 不明	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13			・適度な距離が取れている。	・荷物が多い子どもが重なり狭く感じるので、日頃から整理整頓が大切だと思う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		1	・十分な時が多い。	・人が多過ぎることもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	5			・2階のためバリアフリー化はされていない（4名） ・階段とすくすく～もりもりの連絡通路の段差、ステップに入るドアが狭いのが危険。 ・トイレが夏は暑く、冬は寒い。 ・テラスの日除け。 →可能な限り対応して参ります。 ・おもちゃ棚の整理がもう少し必要かと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	3			・部屋は片付いていると思うが棚の中が雑然としている。 ・登園児の組み合わせなどで、雑然としている日はある。 ・エアコンが故障している。 →一定の時間が経過すると電源オフになってしまうことがあったので、業者に点検してもらい改善しました。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1		・現状であれば可能ではある。	・個別の部屋を使用することは難しい。 →可動式の仕切りを利用した別室や相談室の使用が可能です。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	2			・パートさんも振り返りに参加できる方が良いように思う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13			・保護者面談を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	1	・本評価や、数か月に1度行う法人全体の自己評価にて機会がある。 ・毎月の振り返り、ミーティングを行っている。	・ミーティング、常勤会議と、同じメンバーが参加しているように思う。 →時差出勤職員が多いため、全職員で集まる機会は月1回の療育勉強会のみとなっています。会議に参加できない職員には事前に議題があるか確認し、会議後には議事録を共有しています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	3	1		中途入職者に説明ができていなかったため、今回周知しました。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	13			・法人内の療育・看護の勉強会に加え、オンライン研修を契約、視聴できる環境がある。 ・イベントや学会に積極的である。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		1	・定期的な見直し改善が行われている。	中途入職者に説明ができていなかったため、今回周知しました。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13			・定期的な見直し改善が行われている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13			・定期的な見直し改善が行われている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		1	・ケース会議実施。 ・ケース会議が開かれみんなで共有し子どもたちの理解を深めている。 ・定期的な見直し改善が行われている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	1	1	・定期的な見直し改善が行われている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		2		・出来ていると思うが、家族支援の踏み込み方が難しいと感じる。 ・されてると思うが具体的に知らない。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ステップきっず	公表日				令和 7 年 9 月 25 日	
		チェック項目	はい	いいえ	無記入 又は 不明	工夫している点	課題や改善すべき点	
な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	1				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13			・毎月月案を見直している。 ・あえて固定化させていることもある。児の特性により ・定期的な見直し、更新を行っている。	・感覚・感覚遊びをもう少し取り入れていきたい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12 (うち△1)	1		・遠足やイベントを行っている。	・集団活動の機会が少ない。 ・集団療育がほぼ朝の会なので、1日の中で朝の会以外にも集団療育が出来ると思う。 ・個性が高く集団でなかなか遊べていない。（遊びたい！）	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10 (うち△1)	3		・時差出勤者が多いため困難。前日に行っている。LINEWORKSで共有。 ・ノートで実施。	・出勤時間にばらつきがあるので難しい部分もあるのかなと思う（2名）	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	1			・なかなかその日、療育に携わった職員全員で振り返ることが出来ていない。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13			・個々に月案用紙を作成、記録している。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		1			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		1		・されていると思うが具体的に知らない。 →今回周知しました。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12	1		・主治医と連携出来ている。	地域の障害福祉課の職員の見学を受け入れ、連携を図っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	1	2	・見学の受け入れや申し込み資料の作成を行っている。 ・ただし最近ケースがありません。	・されていると思うが具体的に知らない。 →今回周知しました。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		1	・見学の受け入れや申し込み資料の作成を行っている。	・されていると思うが具体的に知らない。 →今回周知しました。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。						
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。						
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。						
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	5	4	・発達支援センターが関わっているケースが現状ない。	・されていると思うが具体的に知らない。 →現在児童発達支援センターが関わっているケースはありませんが、案内のあった連絡会等には最低1名の職員が参加して交流を図っています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2 (うち重複回答1)	12 (うち重複回答1)		・きょうだい児や地域の子どもが遊びのボランティアで来訪している。 ・MCSでの情報共有は行われている。 ・公園に散歩に行った際交流することがある。	・2階にあること、子どもたちが揃う時間が遅いこともあり散歩などの外出がなかなか難しい。 ・保育園、認定こども園等との交流は行われていない。 →積極的に交流の機会を持てるように、取り組んで参ります。まずは、近隣の2園に働きかけたいと思います。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	1		・送迎時や書面で細やかに行っている。	・保護者からの情報共有を求めているが無い場合もある。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9 (うち△1)	4		・プログラムという形ではないが、不定期でピアサポーターからの情報提供や保護者の会（ママ会）実施。 ・ペアトレの機会はないが親子参加のイベントがたくさんある。		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ステップきっず	公表日				
			令和 7 年 9 月 25 日				
		チェック項目	はい	いいえ	無記入 又は 不明	工夫している点	課題や改善すべき点
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	1	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13			・全職員で共有できている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13			・個人的には実施している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12 (うち△1)		1	・機会は少ないがある。 ・親子イベントの機会を増やしている。 ・きょうだい同士の交流は現在はいっていないが過去の実績はあり。	・きょうだい児の交流の機会を増やしたい（2名） ・きょうだい支援は出来ていない。土曜の午後など出来たら良いと思う。 ・母の会の参加率が少なく形を変えなければならないのかなと感じる。きょうだい同士の交流なかなか難しい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13				・ただし規程上受けられないことについては悩ましく思っている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13			・おたよりを楽しみにしている家庭がある。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13			・カードや情報機器を積極的に取り入れている。	
非 常 時 等 の 対 応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	9	2	・以前は行えていた。	・地域との関わりが無い。 ・現在実施できていない。 ・今期はできなかったが来期は行事を行いたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12 (うち△1)	1			・マニュアルを整備、避難訓練は毎月実施しているが、周知不足。 →BCPと同様に勉強会のテーマとして取り上げ周知して行きます。 ・防犯が少し不十分かなと思う。外部から入れる環境にはある。 →外階段からの扉にはオートロックがついていますが、内側にはありませんでしたので、準備でき次第設置します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13			・毎月実施。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13				
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		2		・されていると思うが具体的に知らない。 →今回周知しました。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13			・法人全体でも共有している。 ・再発防止に向けて、毎日検討事項があれば話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13			・案内のあった研修には必ず1名が参加し、所内で周知している。ご意見BOXがあり、発言しやすい環境。 ・DVD視聴を義務付けられている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		1	・基本的に行わないが階段移動時のみ手を拘束することがあり、必ず事前に保護者に説明している。	・されていると思うが具体的に知らない。 →今回周知しました。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ステップきっず					公表日		令和 7 年 9 月 25 日		
		チェック項目	はい	いいえ	無記入 又は 不明	工夫している点	課題や改善すべき点				

○その他お気づきの点やご意見ご要望がございましたら何でも結構でござ記入ください

今年は親子イベントを増やしていることで、ご家族とお会いする機会が増え、職員も一緒に楽しませていただいています。
きょうだい参加のイベントを増やしていきたいです。

子どもに丁寧に関わっている。
2階に療育の部屋があり改善出来たら良い（物理的に難しいが…）。
危機管理の意識を常に持つことが必要と思う。

同居家族以外の引き渡しは原則できないことを登園に関しての規約に明記しておいた方が良いのかなと思います。登園開始前にお伝えできればと思います。
地域との交流（保育園とか児童館とか）が出来ていないので行えたら良いなと思います。誰かが担当になり情報収集したり計画したり出来たら良いですね。難しいとは思いますが…。災害時のことを考えても地域との交流は大切なので子どもたちのことを知っていただける機会を作れると良いと思います。

当日、前日のキャンセルも多いので、HPなどを充実させて空き状況をお知らせして、家族の急な用事や受診などに対応してあげたら良いと思う。
HPを充実させるorインスタなどで保育の様子を保護者に発信してあげたい。保護者に情報発信、子どもの様子を伝えてあげたい。

良い気候になったらもっと積極的にお散歩に行きたいです。
感触遊び（水、泡、粘土、砂、絵の具etc…）をもっとたくさんやりたい！（計画したいです）

ステップきっずはとても丁寧な療育をしていると感じます。
子どもたちが、ステップで遊ぶのを楽しみにしワクワクした表情を見せてくれます。また重症で表情の変化がなかなか読みとりにくいお子さんでも、徐々にステップきっずに慣れてきて、わずかな表情のちがいや何かを伝えたい様子などわかるようになり、集団生活で得られる社会性を感じます。

散歩も含めどんどん外へ出て活動していきたい。
親子で楽しめる行事も沢山企画していきたい。

難しい支援計画やイベント、製作物の実行に携る職員の努力に敬意を払います。
古い&壊れたおもちゃが目立ちます。
エアコンを修理してください。付けたり消したりする事は難しいです。